日本顕微鏡歯科学会第 14回学術大会事後報告

平成29年4月14日(金)、15日(土)、16日(日)の3日間にわたり、一橋大学一橋講堂にて日本顕微鏡歯科学会第14回学術大会が開催されました。大会テーマ「顕微鏡が歯科をリードする（A Leading Bird of the Flock）」と題し、大会長の鈴木真名先生（東京都開業）のもと海外からの参加者を含め過去最大の約700名にお集まり頂き盛会裏に終了致しました。また、今回初の試みとして、ハンズオンコースの開催、海外参加者向けの同時通訳が行われ、好評を頂く事が出来ました。全ては、関係各位の温かいご協力、ご支援の賜と感謝申し上げます。

【1日目】

初日には、ハンズオンコースが4社（白水貿易、ヨシダ、モリタ、ペントロン）のご協力を頂き行われました。

〇株式会社モリタ

マイクロエンド　ザ・BASIC
三橋晃先生

○ペントロン株式会社

マイクロエンドサージェリー
-マイクロスコープと基本術式-

中川寛一先生

○株式会社ヨシダ

Basic Training　using
the Microscope

栗原一雄先生

○白水貿易株式会社

マイクロスコープの基礎知識から
応用まで

辻本真規先生

【2日目】

松本邦夫先生

辻本恭久先生

実行委員長の松本邦夫先生（東京都開業）、学会長の辻本恭久先生（日本大学松戸歯学部）の開会挨拶に続き、大会長の鈴木真名先生の基調講演から始まりました。

鈴木真名大会長による基調講演

基調講演では、現在日本のマイクロスコープが世界的に見ても普及しており、単純計算で歯科医院約10件に1台の割合で普及しているとのことでした。今後、マイクロスコープを用いた診療スタイルで日本から世界に向け情報発信が行われる事が期待できるのではないかとまとめられました。

続いて、一般口演が行われこの日は海外からの演者を含む7組の演者による発表が行われました。歯周外科、インプラント周囲炎、補綴修復、ハイジニストワーク、歯内療法と多岐にわたる演題が発表されました。

2日目　一般口演演者と辻本恭久先生（学会長）

午後からは、2社（株式会社モリタ、白水貿易株式会社）による企業フォーラムが行われました。

株式会社モリタ／磯崎裕騎先生
「人間工学的見地から考えた環境とマイクロスコープの有効的な利用法」

白水貿易株式会社／山口文誉先生
「インプラント治療におけるマイクロスコープの応用（Neossインプラントの臨床的優位性）」

続いて行われたシンポジウム１では、「インプラントマイクロサージェリー」のテーマの元、4名の演者がマイクロスコープを最大限に生かしたインプラント治療の実際について講演し、その後のディスカッションでは会場からも多くの質問が有り演者を含め、盛り上がりを見せました。

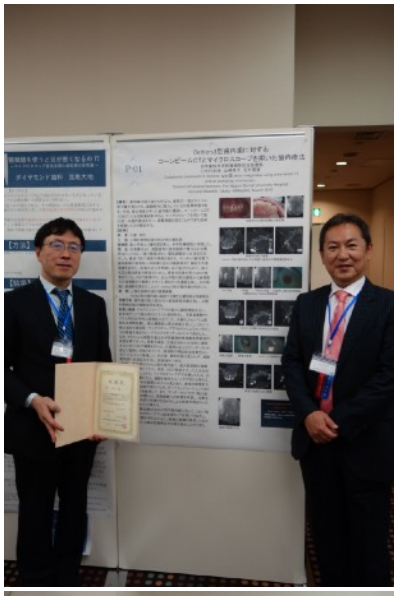
「インプラント治療のトレンドと将来展望」　勝山英明先生

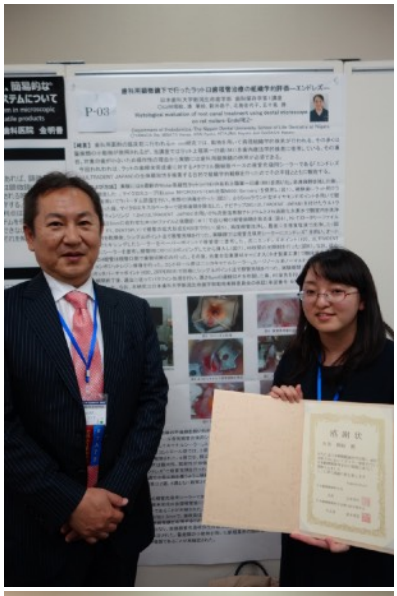
「マイクロサージェリーのインプラント手術への応用」　南昌宏先生

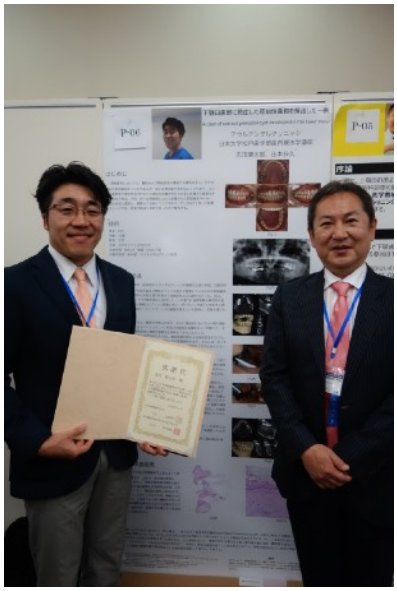
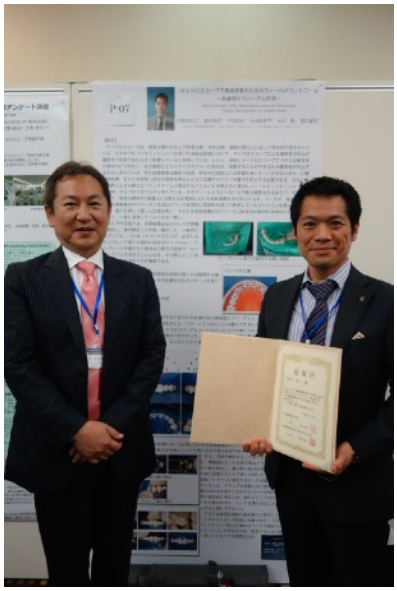
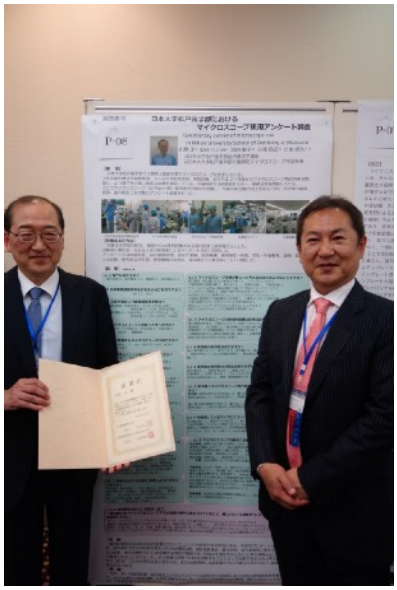
「Minimally Invasive Surgery
-インプラント周囲の軟組織移植術、骨造成術への応用-」　佐藤琢也先生

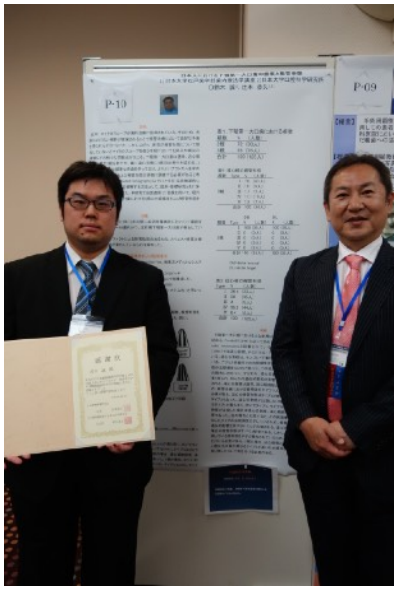
「インプラントマイクロサージェリー；手術用顕微鏡を用いたインプラント治療を前提とした上顎洞への取り組み」　千栄寿先生

前大会より行われているポスター発表は10題集まり、内容も多岐にわたり、マイクロスコープの臨床応用の幅広さを感じさせる発表でした。







2日目最後の締めくくりは、場所を如水会館スターホールに移し、オペラ歌手や、実行委員の演出もあり、盛り上がりを見せました。

【3日目】

最終日となる3日目のはじめは、前回学術大会、大会長賞を受賞された長尾大輔先生による講演が「根尖よりガッタパーチャが漏出した上顎左側第2大臼歯への再根管治療」と題し行われました。

その次に一橋講堂では、一般口演、企業フォーラムが開催され、同時刻に、衛生士セッションが2階会議室にて開催されました。

3日目　一般口演演者と辻本恭久先生（学会長）

一般口演では、前日に続き、海外からの演者を含め6組の発表が行われ、根管治療、インプラント治療、レーザ治療と幅の広い内容で、質疑応答も活発に交わされました。

企業フォーラムは、デンツプライシロナ株式会社、イボクラールビバデント株式会社により開催されました。

デンツプライシロナ株式会社／辻本真規先生
「マイクロスコープとWave One GOLDを使用した効率的な根管治療
～Ni Ti file使用前後の重要なポイント」

イボクラールビバデント株式会社／大河雅之先生
「Minimally Invasive Full-mouth Rehabilitation utilizing Microscope」

衛生士セッション「私たちの可能性を広げてくれる顕微鏡」では、、4名の普段からマイクロスコープを使用してハイジニストワークを行っている歯科衛生士が講演を行いました。歯科衛生士がマイクロスコープを使用するに当たり勘所を押さえた内容で、質疑応答では時間内ぎりぎりまでの盛り上がりを見せました。

「若手歯科衛生士が使うマイクロスコープの可能性」　杉山幸菜さん

「衛生士が行う一歩先のデブライドメント」　齋藤裕子さん

「継続し続けたことで知り得たもの」　上田こころさん

「拡大してみえる事、伝える事の重要性」　林智恵子さん

最終日、午後の講演は「保存へのチャレンジ」のテーマにてシンポジウムが行われ、3名の先生が天然歯保存、歯髄保存についてマイクロスコープ治療の必要性を理解するのに十分な多くの素晴らしい症例を提示して頂きました。

「マイクロサージェリーを応用した歯周組織再生療法」　北島一先生

「マイクロエンドドンティクス：天然歯保存への貢献」　興地隆史先生

「マイクロスコープを用いた精密歯科治療」　岡口守雄先生

大会の最後に表彰式、閉会式が行われ、大会長賞には稲本雄之先生、最優秀ポスター賞には北村和夫先生が選出され、無事終了致しました。

最後になりますが、学会登録者数も年々増加しており、日本顕微鏡歯科学会の更なる発展が期待される中、来年の大阪での学術大会が今から非常に楽しみです。